

# 日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 **3** 回 助成期間：平成 **18** 年11月1日～  
平成 **19** 年10月31日

テーマ：環境教育と野鳥たち  
氏名：下山 一夫 所属：神奈川県秦野市立鶴巻小学校

## 1. 課題の主旨

### ○ 課題の目標

地域の環境を見つめ自然の豊かさや良さを知り、自然とふれあうことで、生涯郷土を愛する人となるようにする。その際、小学生には親しみやすい野鳥に目を向け、環境をはかるものさしとして位置づけ、環境問題への意識化へとつなげたい。

### ○ 課題のねらい

鶴巻小学校は、神奈川県西部、秦野盆地の東側に位置し、南側には市内では最も規模の広い田園風景が見られる。また、その一角に近年おおね公園が整備され、その公園内には池がある。アシが生えているため野鳥の種類も多く、冬はカモ類が多く見られる。北側には雑木林の多い弘法山や権現山が見られ山頂には水飲み場があり、野鳥の渡りのコースとなっている。

そのような環境を活かし、季節の変化を感じながら野鳥に目を向け、野鳥を通して環境を知り郷土を愛する人になってほしいと願う。

## 2. 準備

- ・1年間の活動計画を立てる。
- ・野鳥クラブの発足
- ・観察用スコープの購入
- ・野鳥シート(野鳥の絵がかいてある下敷き)の「身近な野鳥」「水辺の野鳥」の購入
- ・ジャパンバードフェスティバル2006への参加のための計画準備
- ・PTAの活動計画(親子バードウォッチング)

### 3. 指導方法

地域の環境を活かした指導ができるように、情報を得て、その情報を教師間で共有化し、「総合的な学習」や「生活科」「理科」の学習に役立てるようにする。

親子バードウォッチングや夏休みわくわく体験の時のバードウォッチングでは、教師の参加を多くして、観察に慣れない教師も野鳥の親しみ方や知識を得ることができるようにする。

### 4. 実践内容

#### 1、調べる活動

(1) 地域の環境を調べる。

- ・丘陵地帯から流れる善波川、蛇久保川、大根川と、それら河川から水を引いた水田地帯について
- ・小田急の鶴巻温泉駅周辺の環境や温泉街など人とのふれあいのある地域について
- ・川やその周辺にくらす生き物、植物、野鳥について
- ・おおね公園内のやすらぎの池に飛来する野鳥について
- ・弘法山や権現山の野鳥について

※ これらの活動は、「総合的な学習」や「生活科」の時間を利用する。また、PTA主催「親子バードウォッチング」でも地域の野鳥を知ることができる。

※ 調査の結果、3年間で約40種類の野鳥が確認できた。



(2) 自校で見られる野鳥について

- ・校内の巣の調査

鶴巻小校内で確認できた野鳥の巣は、ツバメ・イワツバメ・ハシブトガラス・キジバト・ドバト・キセキレイ・コゲラ（ハシブトガラスの巣は桜の木に作ったが、木の枝を利用して作られていることから自然が豊かであることが分かる）

(3) ツバメの調査

- ・毎年、校内にツバメが巣を作るが平成16年度にはコシアカツバメの巣が確認された。しかし、その後は見られない。ツバメが巣を作る場所はほとんど同じだが、全部無事に育つとは限らない。平成18年のツバメの巣は職員玄関への階段の壁にも作られたが、「私が育ててあげないといけない」と思った低学年の児童が巣を落としてしまい、その後に気がついた5年生が保護した。巣の代わりにカップラーメンの容器を取り付けた所、ツバメがその容器でヒナを育てた。それは嬉しいことだった。落としてしまった児童も校長先生から命の大切さについてのお話を聞き、お詫びの手紙を書いて巣の前で読み上げていたのが印象的だった。カップラーメンの容器で2度目にヒナを育てる前に泥を容器の内側に塗って巣材を運び入れていたことにも驚いた。
- ・平成19年の5月～6月には、2年生が観察をしていたが、ツバメの糞を水洗いして、虫の消化できない部分を顕微鏡で確認するなど、詳しい観察をしていた。

## 2、知る活動

(1) 地域の人材活用により子どもたちの自然への興味関心を高める。

- ・昆虫、植物、水生生物、野鳥などに詳しい指導者を講師として依頼し、より興味をもって活動できるようにした。(校内・校外)

(2) 学校に講師を招いて、野鳥に関する話を全校で聞く

- ・低学年はカワセミの仲間を迫力ある映像やクイズなどで詳しく知る。
- ・高学年は地域で見られる野鳥についての話を聞く。

## 3、広める活動

(1) 調べたことをまとめて発表会を開く。

- ・総合的な学習の発表  
(保護者、地域の方、異学年の児童が参観)

(2) 発表会に参加する。

- ・ジャパンバードフェスティバル2006  
に参加(千葉県我孫子市)

(3) 全校にジャパンバードフェスティバル2006  
会参加の様子を知らせる。

(4) 学校の鳥を児童代表委員会で決めた。

野鳥クラブで数種類提案をしたが、「ツバメ」に決定した。



## 4、護る活動

(1) 地域の自然の良さを知り、それらを大切に護る意識を持つ。

(2) 環境について野鳥を通して知る

## 5. 成果・効果

1、地域の野鳥の種類を調べることができた。環境の違いによる野鳥の種類について知ることができた。

川、畑、池、水田、街、里山、丘陵、山頂の水飲み場、など野鳥の生息環境の違いや季節による種類の違いを知ることができた。約40種類の確認ができた。地元に住んでいても、今まであまり気にしていなかったとか、名前を知らなかった、という声が聞こえていたが、身近な野鳥とのふれあいができた。

また、自然への意識や野鳥に興味を持つ児童が増えてきた。また、幼稚園児と一緒にバードウォッチングでは、感動する園児や住んでいる地域にたくさんの野鳥がいることに驚いた保護者などの声を聞くことができた。

2、校内で観察出来る野鳥や野鳥の巣を身近に感じた。

校内では8種類の野鳥が巣を作っていたことが分かった。特にコゲラはケヤキの木に巣穴を掘っているところを地域の方に教えていただくこともあり、関心を深めた。

ツバメの巣は毎年身近で観察できるので児童の興味をひいた。



3、学校の鳥を決めた。

学校周辺で観察出来る野鳥の中から、6種類を提案して、児童代表委員会で決定した。

ツバメは夏鳥なので、見られない時があるという声もあったが、何年も前から鶴巻小に巣を作っているのよいいのではないかと、という意見も出て決定した。野鳥クラブで学校の鳥「ツバメ」を知らせるポスターを描い

て校内に掲示した。これらの活動は、児童への意識づけができてよかった。

- 4、野鳥クラブができたことで、親しむ活動が増えたり、児童集会で、鳥の紹介やクイズ、ヒナを拾わないでキャンペーンなどのお知らせができてよかった。また、クラブ員も意欲的に参加できた。
- 5、学校全体の取り組みや野鳥クラブの活動を8月に神奈川県野生生物保護実績発表会で児童が発表した。
- 6、地域の方とのふれあいができてよかった。地元で観察を続けていられる方の詳しい観察情報や、指導者の方とのふれあいができてよかった。

## 6. 所 感

平成19年度より秦野市の愛鳥モデル校の指定を受け、活動もより活発になってきた。

地域の自然に目を向けて、ふれあうことができてよかった。そこに生息する野鳥を知る機会が多くなり、環境への意識が高まってきた。平成9年度、10年度にも秦野市の愛鳥モデル校であったことも幸いした。

特に鶴巻地区は広い水田地帯があることで、シギ・チドリ類の観察ができたり、冬にはカモ類の多くが飛来したり、夏にはオオヨシキリの姿を見ることができる。それらは、地域環境と野鳥の関係を知る上でとてもよい条件だと思う。

教師も専門家を講師として招いて、「やさしい鳥調べ」についての話を聞き勉強になった。

助成金をいただけたことで、鮮明に観察できるスコープや観察用の野鳥シートの充実により、可愛い野鳥の姿をじっくり観ることができた。小学生の子どもたちに感動を与えることができた。

## 7. 今後の課題や発展性について

- ・ 地域の環境の豊かさを再認識して、さらに親しめる活動をしていきたい。秦野市の愛鳥モデル校の指定も受けたので、各学年の計画を充実していき、小学生が野鳥に親しむ機会を増やし、郷土を愛せる児童の育成に努めたい。
- ・ 今後は冬の餌不足を補うための給餌活動や巣箱を作り、冬のねぐらやヒナを育てるための巣箱の設置を計画したい。
- ・ 環境整備や機材の充実をめざし、より活動しやすい環境をつくる。
- ・ 地域との連携を大事にして、活動の和を広げていきたい。

## 8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

特に無し